

高水準の保証体制構築

大堀研磨工業所



専用ブースに設置された3次元測定器



大堀 憲社長

3次元測定器を導入 航空機関連の拡大狙う

精密部品加工を手掛ける大堀研磨工業所（本社各務原市蘇原寺島町1の9、大堀憲社長、電話058・389・1811）は、3次元測定器などを導入し、高水準の品質保証を付加した製品の納品体制を整える。既存顧客からの受注増および新規顧客の開拓を狙う。

5月に3次元測定器を導入しており、9月には高精度の真円度測定器を導入する計画。また、8月には、航空機産業に参入するのに必要な品質管理システム「JISQ9100」を取得する予定で、特に航空機分野での受注拡大を狙う。（各務原・片桐芳樹）

同社は1968年創業。工作機械を中心に、航空機、包装関連などの精密部品加工を手掛ける。NC加工で対応できない研削加工技術に強みを持ち、多品種、少ロットを得意とする。取引先は500社以上。

測定器を導入し、同社で検査体制を整えることで、顧客側は検査の手間が省け、さらに、部品に不備があった場合は同社で修正加工が可能。検査から加工まで対応できる体制を整える。大堀社長は「研削加工で、特に真円度が要求される」と、今後の品質保証体制の強化に期待する。

の導入とともに、第2工場内に24時間体制で室内温度を20度に保ち、湿度を管理した測定専用ブースを設けた。専任者1人を配置。さらに今後、人員増を図り、検査部門の充実を図っていく考えだ。航空機関連では、このほど各務原商工会議所の支援を得て、経営革新の承認も得た。大堀社長は「すでに検査を手掛け、お客さんから評価を頂いている。今後、測定に対する教育を徹底し、技術レベルを上げ、いざ測定の事業としても確立したい」としている。